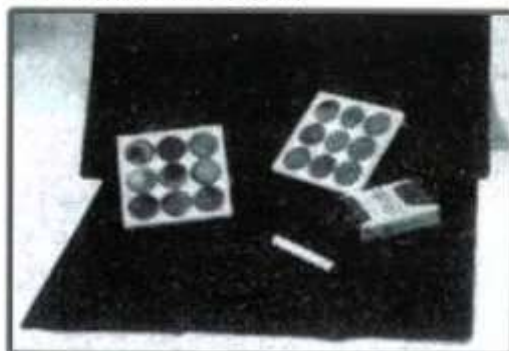




福島市は市内に信夫山・羽黒山の高峰があるため、VHF電波が遮蔽され、業務に支障が出ていました。そのため、信夫山の山頂に無線中継局を設けて通信の安定化を行うべく、この中継所の電源に太陽電池を使用したのです。

使用された太陽電池は1個1,000円。これを4,320個も使用したというのですから、この太陽光発電システムの構築は、当時としては莫大な経営資源を投入した一大プロジェクトであったことが伺えます。

現在は、通信技術の進歩などにより、信夫山にあった太陽光発電による無線中継局は姿を消しましたが、当時導入にまい進した社員たちの思いは、今も信夫山の山頂に宿り続けているのではないのでしょうか。



たばこと比較するとその大きさが分かる



福島市信夫山に建設された日本初の太陽光発電によるロボット無線中継局。局舎には、火災・盗難・風雨に備えるため、鉄筋コンクリートが採用された。